

1 はじめに

今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で、児童会が企画・運営する行事など、様々な特別活動に関する教育活動が中止となった。計画委員会では、「きれいな心で楽しい学校にしよう」というめあてを立て、このような状況の中でできること・必要なことを話し合い、実践してきた。また、豊かな人間関係を築きにくいという課題から、異学年での交流を意識した活動を継続して行ってきた。

2 実践例

今年度の計画委員会では、「きれいな心で楽しい学校にしよう」というめあてを立てた。「きれいな心」には、「親切で優しい気持ちで友達と接する」と「清潔で気持ちよく過ごすことのできる環境をつくる」という意味が込められている。以下その具体的な取組を紹介する。

(1) いじめをなくすための取組「みんな仲良し友達宣言」

いじめのない環境をつくっていくための行動を一人一人が考え、用紙に書いて昇降口に掲示した。掲示することで、一人一人の意識を高めるとともに、学校全体として、「いじめを許さない」という雰囲気をつくるようにした。また、自分の宣言したことが実践できたらシールを貼る掲示物を作成し、行動に対する意識を高め、それを持続できるようにした。



みんな仲良し友達宣言の掲示物

(2) ベストクリーン賞

清掃活動において、「時間を守って活動しているか」「静かに取り組んでいるか」「すみずみまできれいにしているか」など、各学年に応じた目標を設定し、計画委員会で調査を行った。後日、よく取り組んでいた学級を放送で発表し、表彰した。この活動を行ったことで、「静かに、丁寧に清掃しよう」という意識が全校において高まり、現在も継続して取り組むことができている。

(3) 異学年による交流遊び

小規模校である本校では、人間関係を広げることが難しいという課題がある。そのため、これまでは1～6年生の縦割り班を編制し、交流の機会を増やしてきた。今年度も交流の機会をできるだけ確保したいことから、規模を縮小し、二つの学年（学級）による交流遊びを設定した。下級生にとっては、上級生に温かく接してもらうことで「学校が楽しい」と感じる事ができ、上級生にとっては、思いやりの心や上級生としての自覚を高めることができる取組である。



1年生と6年生の交流遊び

3 成果と課題

現在のコロナ渦の状況にあっては、人を大切に思う温かい心が大切である。友達へのよりよい接し方を考える、友達の頑張りを認め合う、多くの友達と交流をするといった活動によって、学校全体の温かな雰囲気をつくるとともに、児童一人一人の人権意識を高めることができたと感じる。今年度は、児童の主体的な取組が難しい状況ではあったが、特別活動を通して、学校の課題を解決したり、児童にとって安心な環境を作ったりすることができた。今後、児童が積極的に声を上げ、自主的・実践的に学校をよりよくしていけるような支援の在り方について、取り組んでいきたい。